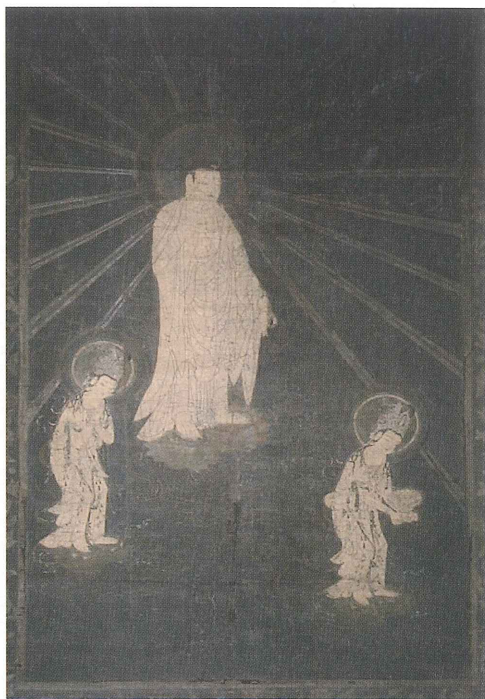


絹本着色阿弥陀三尊来迎図



〔指 定 年 月 日〕 昭和六〇年三月三〇日
〔種 別〕 有形文化財（絵画）
〔名 称〕 絹本着色阿弥陀三尊来迎図
〔点 数〕 一幅
〔所 有 者 等〕 西方寺
〔所 在 地 等〕 梅里一―四―五六

絹本着色阿弥陀三尊来迎図

鎌倉末から南北朝期の作品と推定される。由来は不明である。阿弥陀如来が観音・勢至両菩薩を従えて往生者を迎える典型的な阿弥陀三尊来迎図であるが、三尊のみで往生者は描かれていない。三尊とも着衣・肉身ともに金色とし、着衣には金泥により細密な文様を全面に配している。

構図的には観音菩薩を阿弥陀如来の前方に少し離して描くことにより、三尊の間に奥行きのある空間を造出し、従来の阿弥陀来迎図にはみられない現実味をおびた図様をつくりだしている。さらに雲の湧きあがり方や両菩薩の天衣のひろがる形が穏やかな動きを示し、それが三尊の間に表現された奥行きのある空間に十分包みこまれている点は、本図の表現として出色のものであり、作者は不明ながら画家の優れた技量をうかがわせるものがある。

また、縦二二一cm、横一二七cmという大画面は現存する来迎図では最大級のものといわれ、描装もほぼ完全に残されている。

一四世紀頃の仏画の優品で、絵画史の上でも貴重な資料である。

【文化財所在地】

